

モモせん孔細菌病の春型枝病斑からは 長期間にわたって病原細菌が漏出する

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

- 1 部門名 果樹－モモ－病害虫防除
- 2 担当者名 日下部翔平、七海隆之、藤田剛輝
- 3 要旨

春型枝病斑はモモせん孔細菌病の重要な伝染源であるが、病斑部から病原細菌が漏出する期間は明らかになっていない。そこで、春型枝病斑からの病原細菌の漏出期間を調査したところ、春期の病斑形成後から9月上旬頃まで長期間にわたることが明らかとなった。

- (1) 「ゆうぞら」を対象として、2021年は2本、2022年は4本の春型枝病斑を定期的に滅菌水に浸漬し、浸漬液中の病原細菌数を算出することで病原細菌の漏出量を調査した。
- (2) 2021年は調査終了日の8月23日まで、2022年は9月1日まで病原細菌の漏出が認められた。また、調査期間中に枯死状となった春型枝病斑からも、長期間にわたって病原細菌の漏出が認められた(図1、図2)。
- (3) これらの結果から、枝の状態にかかわらず、春型枝病斑からの病原細菌の漏出は長期間にわたることが明らかとなり、春型枝病斑の早期せん除の重要性が再確認された。
- (4) 春型枝病斑及び発症が疑われる枝については、見つけしだい早急にせん除する。

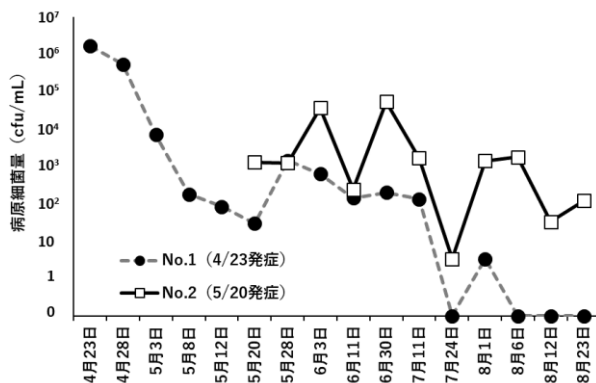


図1 春型枝病斑からの病原細菌漏出の推移(2021年)
※No.1(破線)の枝は5月上旬に枯死状となった。

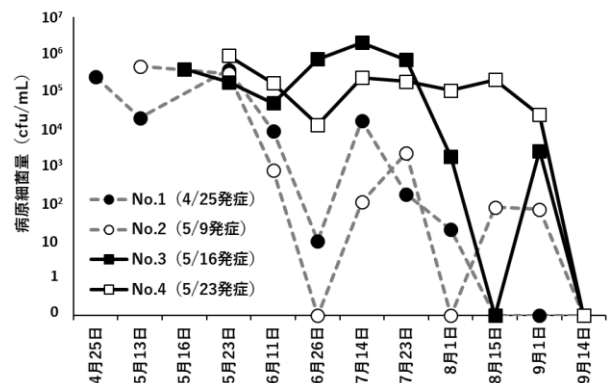


図2 春型枝病斑からの病原細菌漏出の推移(2022年)
※No.1及びNo.2(破線)の枝は5月23日頃に枯死状となった。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 重要な病害虫に対する防除技術の確立

5 主な参考文献・資料

なし